

リスクを低減しつつ、安定収益確保を目指す 「ムーンライト・エイドスファンド」『愛称:アマテラス』

「減らさない」運用を目指すファンド

プロ向けの運用技術を駆使し、個人投資家のための「減らさない」運用を目指したファンドが登場した。ムーンライトキャピタルが2010年2月に設定した「ムーンライト・エイドスファンド『愛称:アマテラス』」は、運用リスクを低減し、安定収益確保を目指すシステム手法を活用したファンドである。ポートフォリオの約1～2割（キャッシュベース）で日経225先物・オプション取引を行い、ポートフォリオの大半は短期公社債で運用する。

“国内初の手法”と自負する4つの運用戦略

当ファンドの運用戦略は、大きく4つに分かれている。1つ目は、日経225先物・オプション取引における「エイドス・モデル」という独自のアルゴリズム運用。同モデルでは過去20年の相場データを解析し、18種類の運用システムを確立。この中から、日々の相場に適応した3つをピックアップし、その売買ルールに従って売買が行われる。

2つ目は、債券投資における「安定運用」戦略。アグレッシブに運用する部分を全体の1～2割にとどめ、残りを短期公社債等で運用することにより、リスクを限定しつつ絶対収益を目指す運用が可能になる。3つ目の戦略は、上記のエイドス・モデルによる運用がデイトレードの仕組みも組入れつつ、宵越しのポジションを保有した時でも低位に限定することで、宵越しリスクの低減に努めている点にある。

また、4つ目の戦略として、円建て商品だけに運用を絞った点が挙げられる。為替リスクは運用において常に懸念要因となるうえ、解約時の為替差損が

リターンに影響することがある。しかし、円建て商品への限定により、為替リスクを回避している。

こうした運用戦略に加え、当ファンドでは商品設計において、申込手数料・解約手数料を0円とした「ノーロードファンド」である点、運用コストについては成功報酬を重視し、「運用の成果に伴う報酬」にこだわった点、随時の解約が可能（解約申し込み受付から5営業日以降の換金）な点も特徴といえる。

海外で実績を持つ運用会社が運用

当ファンドはムーンライトキャピタルが運用を担当。同社は2003年1月に設立され、日本株式のロング・ショート戦略を含めた様々な運用手法を用いた投資商品を国内外の機関投資家に提供してきた。また、2009年6月には投資信託委託業務の登録を行い、個人投資家向けの運用も開始している。

なお、同社代表取締役社長CEO兼CIOの竹村尚子氏は、米国の大手年金基金においてファンドマネジャーとして活躍した後、米系ファンドでオプショア日本株ファンドを担当。世界一のパフォーマンスによりS&P社から表彰された経歴を持ち、“女性版ウォーレン・バフェット”と評する人もいるという。

販売を担当するイニシア・スター証券は、2005年10月に設立。独創的かつ透明性の高い金融商品を投資家の視点から提供しており、同ファンドをはじめとするファンドオペレーション事業やファンドマネジメント事業、CFD取引などを提供する証券取引事業、M&A、VC事業などを展開している。

設定後は着実なリターンを形成

「ムーンライト・エイドスファンド」は2月2日に設定されたが、注目すべきは基準価額の推移であろう。設定後から3週間ほどの期間で、日経平均株価が上下に各2%程度ぶれているのに対して、当ファンドはスタート時の基準価額を割り込むことなく着実に基準価額を切り上げている。

これは、当ファンドの運用モデルがうまく機能している結果と言えるだろう。また、他のどの指数にも連動しない“非連動性”は、当ファンドの大きな強みとなっている。

今後については、「安定した収益を積み重ねつつ、『とにかくリスクを取りたくない』『安心して保有していきたい』という投資家に向けたファンドとして、また、換金性が必要な資金の運用先としても、このファンドをお勧めしていきたい」（竹村氏）という。

図表 独自性が光る4つの運用戦略



出典:「ムーンライト・エイドスファンド」販売資料より。
ファンドの詳細は当ファンドのホームページ(<http://www.aidos-fund.com/index.html>)をご参照ください。